

# Brief Letter<sup>+AGIH</sup>

# Vol. 41

FEBRUARY  
2009

## 特集

### 医療を崩壊させないために —いま、現場でおこっていること—

To reconstruct our medical system



2009 makasyan

#### 上を向いて

巻頭エッセイ

1609年冬。イタリアの科学者、ガリレオ・ガリレイが自作の望遠鏡を月に向けた日から、新しい科学の時代は始まった。「水晶の球」と呼ばれていた月は、クレーターがいっぱいの起伏に富む世界であった。ふしぎな「天の大河」であった天の川は無数の星の集まりで、木星には4つの月が回っていることもわかった。これらの発見は天動説から地動説へと人類を導き、宇宙探索は飛躍的な発展を遂げることになる。そして今年は「世界天文年」。ガリレオの記念碑的観測から400年を記念して、天文学と科学に関する行事が世界中で行われている。

世界的な不況が喧伝される昨今、目にするものは暗いニュースばかりだ。しかし、アメリカ新大統領のオバマ氏は、就任演説で「アメリカは新たな責任の時代を喜んで引き受けろ」と述べ、テレビの街頭インタビューに登場したあるソニーの社員は、「ソニーには、まだまだ夢のある商品をつくる力がある」と語っていた。

くじけそうなとき、私たちはうつむきがちになる。だからこそ、ときに意識的に上を向き、輝く星を眺めてみるのは決してムダではないだろう。私たちの銀河系の他にも宇宙には多くの銀河があるという。つらい時代だからこそ、あえて無限の宇宙に想いをはせ、おおらかな気持ちで進んでいけたらと思う。



医療法人 AGIH 秋本病院

本誌は、秋本病院と患者さん、そして地域をつなぐコミュニケーション誌です。  
ご自由にお持ち帰りください。

## 3段階で患者さんを受け入れるシステム



日本の救急医療は、患者さんの重症度によって3段階にわけられています。初期（一次）救急は、外来で対処でき、帰宅可能な患者さんを診療するもので、福岡市の夜間は、百道浜の福岡市急患診療センターとかかりつけ医の夜間診療が担当します。二次救急は、入院治療を必要とする重症の患者さんに対応する機関で、当院のような一般の救急告示病院もここに含まれます（当院は初期救急も担当しています）。そして、複数の診療科にわたりて高度な処置が必要、または重篤な患者さんを診療するのが救急救命センター等の三次救急で、福岡市内には九州大学病院、福岡大学病院、済生会福岡総合病院があります。このシステムが近年うまく機能しなくなり、患者さんの「受け入れ不能」（メディアでは「たらい回し」といっています!!）がおこっているのです。

# 医療崩壊をいま、現場で起こしていること

## 患者さん増と三次医療へのなだれ込み

福岡市消防局によると、平成19年に福岡市で救急搬送された患者さんは5万人を超え、10年前の約14倍に増えています。

また、搬送された患者さんの約40%が国公立病院へ搬送されており、高次医療を担う救急救命センターに多くの患者さんがあつがえます。

この背景には、いくつかの理由があります。ひとつは、「搬送されるなら、民間病院よりも重装備の救急救命センターのほうが安心」という、患者さんや家族の心理。また、救急隊にも、「患者さんの希望を断りづらい」という事情があります。

さらに、軽・中等症の患者さんの三次

救急への集中は初期・二次救急病院の空床を生み、医療機関が救急医療を敬遠する傾向が顕著になつてきています。事実、福岡市内では昭和39年に80施設あった救急告示病院が平成20年4月には37

施設（公的7・民間30）にまで減少しており、救急医療の崩壊が懸念されています。しかし、三次救急へのなだれ込みが続く限り患者さんの「受け入れ不能」は解消されず、過重労働で疲弊した医師はやむなく救急医療の現場を去り、さらなる

医師不足を招く、という悪循環をひきおこしています。

さらに、軽・中等症の患者さんの三次救急への集中は初期・二次救急病院の空床を生み、医療機関が救急医療を敬遠する傾向が顕著になつてきています。事実、福岡市内では昭和39年に80施設あった救急告示病院が平成20年4月には37

施設（公的7・民間30）にまで減少してお

ります。産科の減少が全国的な問題になつて

いますが、外科や救急医療にも同じ問題

がおこっているのです。

救急患者の受け入れ不能、医師不足や病院閉鎖などのニュースが相次ぎ崩壊の危機に瀕しているといわれる日本の医療。医療資源が比較的豊富な福岡でも、危機は目前に迫っています。

福岡市救急病院協会がまとめたデータをもとに救急医療の実態を確認し、わが国の医療制度について考えてみたいと思います。

院長・医学博士

秋本 亮一

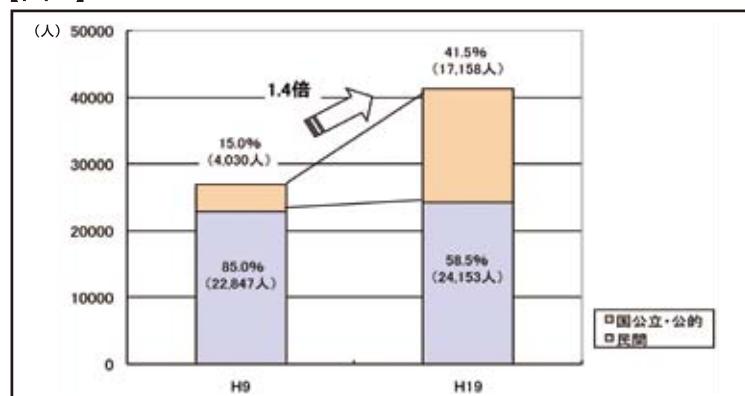
あきもと りょういち

昭和60年 順天堂大学医学部大学院卒、順天堂大学医学部第一外科助手を経てカリフォルニア大学サンディエゴ校外科留学、順天堂伊豆長岡病院外科医長、秋本外科病院副院長を経て平成9年より現職。医学博士。日本外科学会認定医・専門医。日本消化器外科学会認定医。消化器内視鏡学会認定医・専門医。

## 医療資源の適正利用を考えよう

医療崩壊は一朝一夕に解決できる問題ではありません。しかし、すべての人の生活に直接的な影響を与える大問題ですから、崩壊にいたる背景を知り、人的・設備的資源の集大成である医療制度を社会全体で再建しようという意識を高めることが必要です。

【図1】



福岡市の救急告示病院搬送人数(H9、H19)

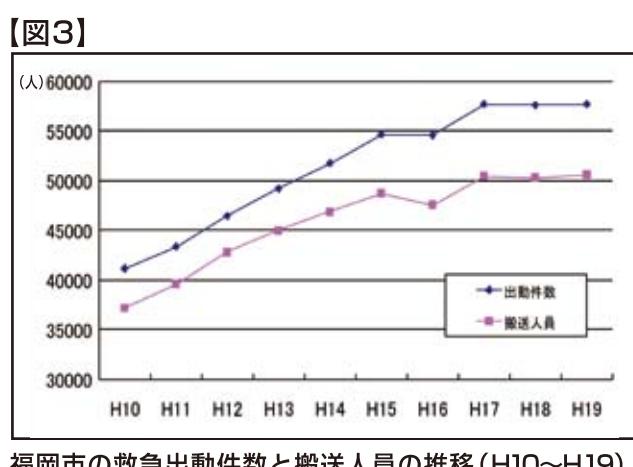
福岡市の傷病程度別救急搬送人数(H19)

たとえば、救急車の利用状況においても同じことがあります。福岡市の救急車の出動件数は年々増え続けており、平成19年には57,749件が出動し、50,620人を搬送しました(図3)。しかし、現場に駆けつけても、症状回復や搬送拒否、軽症や酩酊などの理由で医療機関へ搬送しなかつた例が7,548件あり、全体の13%を占めます。その他、タクシーがわりの利用など緊急性がないのに救急車を呼ぶケースも増えており、救急車が現場に到着する時間は遅くなる一方です。また、救急車の出動は、自治体の財政にも関わっています。現在、福岡市には25の救急隊があり、210名の救急隊員がいます。平成19年の出動回数は一日平均158・2件で、9分6秒に1回の割合で出動していますが、1回あたり約5万円の経費が必要で、これらは私たちの税金で賄われているのです。

もちろん、「救急車を利用するな」と言っているわけではありません。呼びかけに反応がなかつたり、呼吸がとまつた

ときには、すぐに救急車を呼んでください。しかし現状のように、医療という限りある社会資源を個々の都合で浪費していると、本当に必要とする人へ医療が届かず、助かるはずの命を救えなくなることもある、ということを忘れてはいけないと思います。

私たち医療従事者は、医療再建に向けてひろく議論し努力をしています。ぜひともこの問題に関心を持つて考えていただくことをお願いいたします。



福岡市の救急出動件数と搬送人員の推移(H10～H19)

### ○福岡市の救急病院休日当番情報

ふくおか市政だよりか、福岡市救急病院協会のホームページで確認できます。外科以外の患者さんは、下記の急患診療センター、または急患診療診療所をご利用ください。

### ○福岡市の急患診療機関

夜間や休日など医療機関の診療時間外での急患診療に対処している機関です。診療受付時間は、急患診療センターが午前9時から翌朝7時30分まで、診療所は午前9時から午後4時30分までです。

**急患診療センター** ☎092-847-1099

**東急患診療所** ☎092-651-3835

**博多急患診療所** ☎092-441-0020

**南急患診療所** ☎092-541-3299

**城南急患診療所** ☎092-831-7979

**西急患診療所** ☎092-883-3145

**歯科急患診療所** ☎092-752-0648

### ○電話相談

福岡県救急医療情報センター

☎092-471-0099

24時間体制で、診療可能な医療機関を紹介しています。

福岡県小児救急医療電話相談

☎#8000 (福岡県共通・ブッシュ回線対応)

☎092-725-2540 (福岡地域センター)

子どもの急な病気やケガなどについて、看護師、または必要に応じて小児科医が助言を行います。相談者の身近な場所で夜間に診療が受けられる医療機関の情報を提供します。



# Christmas Concert

2008.12.13 Sat

## 第2回 秋本病院クリスマスコンサート

2階の待合室に響くバイオリンの澄んだ音色。

オカリナとギターが奏でるクリスマスソングの数々。

歌詞カードを見ながら、みんなで「きよしこの夜」を合唱し、「サンタが街にやってくる」は、子どもたちの鈴の伴奏つきでぎやかに!

曲が終わり、一瞬の静けさの後で拍手がわきあがったとき、患者さんとご家族、演奏者の方々とスタッフの間でたくさんの「あたたかい気持ち」が交わされたことを感じました。

ご参加いただいたみなさま、本当にありがとうございました。手づくりクッキーも好評で、サンタ&トナカイも大喜びでしたよ!

(秋本病院 企画委員会)



# 緩和ケア病棟だより

## ボランティアますます活動中

嬉しいことに、緩和ケアセンターで活動してくださるボランティアスタッフが次第に増えています。患者さんの要望に合わせた買い物やティーサービスをはじめ、絵本の読み聞かせ、マッサージなど特技を活かしたメニューも増え、楽しみに待ってくださる患者さんやご家族もおられるようになりました。

今回ご紹介するのは、新年最初に行われたティーサービスの様子です。西南学院大学で社会福祉を学んでいる石橋三和子さんと副島速水さんは、ホスピスボランティア初体験。最初はちょっと緊張していましたが、次第に会話をはずみ、「今後もぜひ参加したい」と意欲を語ってくれました。「次はプリンが食べたい」などのご要望もいただき、次回もおいしいお茶とお菓子を用意したいと全員はりきっています。多くのご参加をお待ちしています。

ホスピスボランティアに興味がある、活動を見てみたい、などのご希望があれば、当院医療ソーシャルワーカーの内田までご連絡ください。とくにアロマセラピーをやっていただける方がいらっしゃいましたら歓迎いたします。



思い思いに談話室においてになる患者さんとご家族を囲んで。お茶とおしゃべりの時間はあつという間です。



ご希望に応じて病室へのサービスも行います。「楽しみにしてもらって嬉しい!」



絵本好きのご家族も来られ、読み聞かせのスタッフと話し込む一コマも。



お菓子は鈴懸の和菓子とお煎餅。鈴の最中とドラ焼きは、患者さんから「ドラえもんセット」との命名が。お見事!

## ホスピスの日々 現代ホスピスの創始者 シシリー・ソンダース

緩和ケアセンター長  
医師・医学博士  
**永山 淳**  
ながやま じゅん



シシリー・ソンダースさんは1918年にイギリスの裕福な家庭に生まれました。看護師を志す母親の反対でオックスフォード大学に進学します。その後、第二次世界大戦を機に再び看護の仕事へ情熱を燃やして看護学校に入学。しかし腰の病気のために仕事を断念せざるを得なくなります。悩んだ末に彼女は「患者さんを支える仕事がしたい」と医療ソーシャルワーカーとして働く道を選びます。彼女の受け持ちに、デビッド・タスマというがんの末期の患者さんがいました。残り少ない時間ながらふたりは恋に落ちます。その後タスマさんは亡くなってしまうのですが、自分たちのような患者のために働いて欲しいと彼女に伝え、「君の家の窓になろう」と言つて500ポンドを彼女に遺しました。当時30歳だったソンダースさんは医学部に入り直

し、がん患者さんの苦痛を取り去る専門家になりました。タスマさんの死から20年後、彼女はロンドンにセントクリストファー・ホスピスを開設します。ここには「タスマの窓」という名の窓があります。ふたりの静かで熱い思いが込められている窓です。

緩和ケアの現場では患者さんの苦痛を癒すために多くの専門職が関わります。医師、看護師、ソーシャルワーカー、薬剤師、ボランティア……。さまざまな職種が互いの知識と技術を尊重しつつ、異なるものの見方を互いに取り入れて、患者さんとご家族を支えていく。こうしたやり方は「チームアプローチ」と呼ばれ、病気と一緒に伴つて生じる患者さんのさまざまなお悩みを和らげるためには欠かせない手法だとされています。ソンダースさんが看護師、ソーシャルワーカー、医師とさまざまなかつらうじを経験して、患者さんの苦痛を取り除く「緩和ケア」に辿りついたことが、私にはとても象徴的のことのように思えるのです。

このような本もあります▼「シシリー・ソンダース・ホスピス運動の創始者」シャーリー・ドウブレイ著・日本看護協会出版会、『ホスピス8#8212;その理念と運動』シシリー・ソンダース著・岡村昭彦訳・雲海書房、『20世紀のすきな女性たち』若林一美著・岩崎書店

# 「救急医療」と私

## 千一夜医話



院長・医学博士  
**秋本 亮一**  
あきもと りょういち

医学部を卒業して外科医の道を選んだ私は、研修医時代の救命センター勤務で救急医療の面白さを覚えました。大学院を終え、大学分院の救命センター勤務をしていたころは、「救急車の音がするとあいつが真っ先に救急外来に走っていく」と言われたほど救急にやりがいを感じていました。そのころはまだ若く、体力もあり、徹夜で手術をしても翌日は普通に働けました。

■ ■ ■

多くの外科医は、そういう患者さんに出会うと、その日の疲れを忘れ、恋人との約束をキャンセルし、ソロバン勘定も忘れて治療、すなわち救命に全力を尽します。「ER」というテレビドラマを見たことがある方は少なくないと思いますが、あれは米国だけの現場ではなく、日本でも全国いたところで現実にあることなのです。

■ ■ ■

救急の面白さは、型どおりの症例が少なく、常に応用問題であること。そして迅速な判断が求められ、それにより結果が左右されるというところで、特に外科医の実力が發揮される急性腹症という疾患群（緊急手術を要する腹痛を主訴とする病気）において



数年前から激減しているのです。

医師が夜勤や休日出勤をしても代休がないのをご存知ですか？ 昨年、福島県で産婦人科の医師が、お産の患者さんが不幸な結果になつたということを支えている救急医や外科医の志望者も

かけられた）事件をご存知ですか？ 日本の外科手術の料金が世界的に見ていかに低額に抑えられているかご存知ですか？

さまざまな矛盾がある日本の医療制度ですが、これまでは何とかうまく機能してきました。ところが、10くらい前からそれが機能しなくなっています。救急患者を病院が受け入れられなくて、大変困っているという報道が度々あります。福岡市でも現実にそういう事態が起つります。

■ ■ ■

救急医療が崩壊すると、安心して過ごせる社会ではなくなります。今回の特集にあるように、救急医療の崩壊を食い止めるには、国の政策、医療関係者の努力だけではできません。社会全体が救急医療に理解を示し協力する必要があります。

■ ■ ■

は、診断能力、手術のタイミングの見極め、そして手術の技術など、外科医としての総合力がものをいいます。

多くの外科医は、そういう患者さんに出会うと、その日の疲れを忘れ、恋人との約束をキャンセルし、ソロバン勘定も忘れて治療、すなわち救命に全力を尽します。「ER」というテレビドラマを見たことがある方は少なくないと思いますが、あれは米国だけの現場ではなく、日本でも全国いたところで現実にあることなのです。

■ ■ ■

ところが今、そんな日本の救急医療が危なくなつてきています。産科医や小児科医が不足しているのはみなさんご存じと思います。実は、救急医療を支えている救急医や外科医の志望者も

■ ■ ■

■ ■ ■



## ひのちの輝き

今年大寒を過ぎた頃の大雪で、わが家の庭は瞬く間に雪国へと変貌しました。福岡でこんなに雪が積もったのは何年ぶりでしょう。私の子ども時代はたくさん積もった雪で雪だるまを作り、雪合戦をした記憶がありますが、地球温暖化の影響で昔のような積雪はもうないだろ？という私の考えは、ものすごい吹雪によつて吹き飛ばされました。

その日どうしても車で出かけなければならなかつた私は大雪に巻き込まれ、ふつうなり自宅まで1時間程度の道のりを、3時間かけてなんとか辿り着きました。一夜明けて、どうさり積もつた雪に童心に帰り、家族みんなで雪合戦や雪だるまり作りに興じ、楽しいひと時を過ごしました。ささやかな家庭のイベントでしたが、家族の笑顔は輝いて見えました。

人は、楽しい時、幸せを感じる時、仕事に打ち込んでいる時、きっと輝いていきます。その人からオーラのような輝きを感じることもあります。つい先日、私が二十数年馴染みにしている焼鳥

屋の主人が、がんでお亡くなりになりました。亡くなる数カ月前に店でお会いしたのが最後になりました。闘病されていることを知っていた私は、その時かなり痩せた身体を見て深刻な状態を考えましたが、串物やおにぎりを焼いていた姿に、ふだんと違う鬼気迫る程の迫力といい「ひのちの輝き」のようなものを感じて思わず胸が熱くなりました。そしていつにも増して美味しかった、焼きおにぎりの味も忘れることができません。

先日の大雪どころではない世界不況の嵐の中、日本では派遣社員の大量解雇や就職内定取り消し、ワーキングプアや年金問題など、先が見えない不安に人々の輝きは失われつつあります。さまざまなものによって引き起こされる問題に対しても我々ソーシャルワーカーは介入していくのですが、実際そう簡単に問題が解決するものではありません。しかし、ほんの少しでもその人の笑顔が、そして人生が輝きを取り戻せるように、今日もまたソーシャルワークをするのです。



企画室長  
医療ソーシャルワーカー  
社会福祉士  
精神保健福祉士

**内田 浩穎**  
うちだ ひろとし

## 趣味も多彩で意外に骨太!?なベビーフェイス



看護助手  
**三郎丸 祐子**  
さぶろうまる ゆうこ

色白で背は小さく、かなりの童顔。このようにかわいらしい三郎丸さんは、いまだに学生（高校生！）に間違えられたりすることもあるとか。おとなしそうに見えますが意外に行動的で、愛車はスポーツカー。いろいろなジャンルの音楽を聴き、なかでも特にヘヴィーメタルが好みだったり、その他にもあれこれ驚かされる面をもっています。看護助手の仕事は、配膳、配茶、ベッドメイキングなど多忙。周囲でみている私たちは、もっとご飯を食べて体力つけてがんばってほしいなあと思うでした。

紹介者：まる子

## いたってマジメな仕事ぶりに信頼大の愛されナース



看護師  
**松田 智子**  
まつだともこ

5Fの緩和ケア病棟でいつも背筋をピンと伸ばして働いている看護師、それが松田さんです。仕事への姿勢を表現するには、「ひたむき」「黙々と」という言葉がぴったり！ とっても頑張り屋さんで、去年は目標にしていたケアマネジャーの資格をみごと取得しています。プライベートでは大好きな沖縄でスキーバダイビングを楽しんでみたりとストレス発散も○。休みにはオシャレなカフェをまわったり、足ツボマッサージを求めて出かけたりと、日夜元気に自転車で中央区のあちこちに出没中です♪

紹介者：まっくろくろすけ



STAFF PROFILE

同僚や先輩、後輩が職員の素顔を紹介します。登場するのは、甲乙つけがたいキュートなふたり。さて、どんな話が聞けるでしょうか。

# スタッフの横顔



# Information of AKIMOTO

## Topics

### 青島(チントオ)大学医学院付属医院 創立110周年記念式典に招かれました

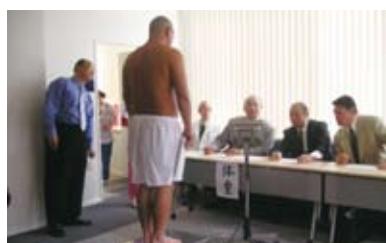
2008年10月8日、中華人民共和国山東省青島市で青島大学医学院付属医院の創立110周年記念式典が開かれ、理事長夫婦が来賓として招待されました。理事長の秋本徹は1943年（昭和18年）に青島医大を卒業しており、1972年の日中国交回復以来ずっと交流が続いています。現在は名誉教授の称号を得ています。青島市は人口800万人の山東省第一の都会で、北京五輪ではヨット競技が開かれた場所でもあります。



病院長の苗志敏 (MIAO ZHIMIN) 氏を囲んで  
秋本徹(右)と秋本幸子

### 大相撲九州場所のサポートが無事終了

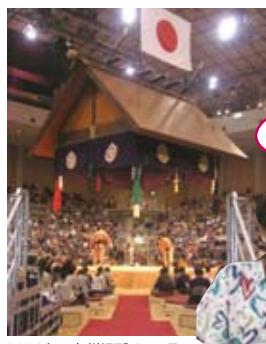
九州場所がやってくると、福岡は本格的な冬の様相となります。日本相撲協会の指定病院である当院では新弟子検査が行われ、毎年大勢の取材陣が集まります。また期間中は、看護師2名が交代で医務室に勤務します。力士やお客様に加えて、親方、行司や呼び出しさんなどさまざまな方が利用される医務室の業務は多忙ですが、スタッフいわく「皆さんの健康管理に役立てるのが嬉しい!」とやりがいも十分なのです。



「体重は…」。協会関係者の厳しいチェックに緊張が走る瞬間!



テレビや新聞などのメディアが集まり、  
健診センターにもぎやかです



2008年の九州場所は、11月9日から23日まで福岡国際センターで行われました

相撲にも  
くわしくなりました



#### 編集後記

暦の上ではもう春。別れと出会いの季節がやってきます。やわらかな陽射しが心地よく、草花が咲き始め、花見も楽しみです。でも花粉症の人には、やっかいな季節。さまざまな人の想いを乗せているから、桜の花は戸惑いながらひらひら舞うのでしょうか。(内田)

秋本病院ブリーフレター Vol.41 2009年2月発行  
発行者／秋本亮一 発行所／医療法人AGIH 秋本病院  
〒810-0023 福岡市中央区警固1丁目8-3  
TEL.092-771-6361 FAX.092-771-9984

## Medical Seminar

### 緩和ケア(ホスピスケア)セミナー開催 お気軽にご参加ください

次回で3回目となる秋本メディカルセミナーは、「緩和ケア」をテーマに行います。知っているようで実はよくわからない緩和ケア(ホスピスケア)や看取りについて、緩和ケアセンター長の永山淳がわかりやすくお話しします。講和の後は施設見学も予定しています。料金は無料ですので、お気軽にご参加ください。



前回は消化器の病気や内視鏡がテーマでした

日時 3月14日 (土)

14時~15時30分(予定)

13時45分より受付

会場 秋本病院

緩和ケアセンター

## Qualification

### スタッフも研鑽に励んでいます

スタッフが新たに取得した資格や研修の一覧です

#### ■介護支援専門員資格

看護師：松田智子

#### ■福岡市救急病院協会心肺蘇生法・AED研修(2008.11.11)

看護師：佐々木朋子・中野利恵・宮西愛美

#### ■福岡空港大災害訓練 (2008.11.19)

院長：秋本亮一、看護師：志賀いづみ・荒木淳

#### ■トリアージ研修 (2008.12.16)

看護師：志賀いづみ・作 加奈子

#### 院外でも活動を行っています

#### ■長崎県緩和ケア医師研修会 講師 (2008.12.13-14)

医師：永山淳

#### ■西九州大学 社会福祉学科 講師 (2009.1.23)

医療ソーシャルワーカー、社会福祉士：内田浩穂

#### ■九州大学病院主催「がん診療に携わる医師に対する

緩和ケア研修会」講師(2009.1.24-25)

医師：永山淳

#### ■日本緩和医療学会主催「緩和ケア基本教育のための指導者研修会」講師 (2009.1.30-2.1)

医師：永山淳



医療法人 AGIH

# 秋本病院

日本医療機能評価機構認定病院  
消化器内視鏡センター・健診センター  
緩和ケアセンター

<http://www.akimoto-hospital.jp>